

# 軟式野球強い富田林

## 11年連続 今年は河南が全国へ

甲子園の全国高校野球選手権大会が終盤を迎えるなか、もう一つの高校野球が開幕する。25日から兵庫県明石市などで始まる第59回全国高校軟式野球選手権大会(日本高野連主催、朝日新聞社など後援)だ。大阪大会では2004年以降、11年連続で富田林市内の高校が優勝し、今年は府立の河南が出場する。なぜ富田林市内の高校が強いのか。背景を探った。

34校が参加した大阪大会でもチームを全国大会に導いた。河南は34年ぶり、2回目の優勝を果した。04年から13年までの10年間は、私立のPL学園と初芝富田林が5回ずつ優勝している。今大会ではPL学園が準々決勝で初芝富田林を破ったが、準決勝で大阪学園に敗れた。

軟式の特徴はボールがバットに当たったとき、変形するので打ち損じが多く、点が入りにくいことだ。硬式に比べ、ロースコアの争いになることが多い。力の差が出てくると、この見方もある。打球も硬式は地をほう遠いゴロが多いが、軟式はバウンドするため失速する。内野手は前に出て捕球するのが基本で、併殺は取りにくい。

河南の田中誠二監督(56)は八尾の監督をしていた96年に

## 「PL学園の存在」 「盛んな少年野球」

甲子園と同じくらいの価値がある」と強調する。

北野主将が慕い、田中監督が「富田林の中学野球を引っ張る存在」と評するのが、市立第三中学野球部の森功一監督(40)だ。

森監督は智弁学園高(奈良県)などで硬式野球を経験。中学で指導した選手が初芝富田林に進学し、大阪大会優勝に貢献したこともある。「全国大会は別世界ではなく、本気で頑張れば出場できると思わせるのが大切。私の練習は厳しいと思うが、高校でも野球を続ける選手が多いのは、ありがたい」と笑う。

初芝富田林の下川原将人監督(32)は「PL学園という大



きな存在が近くにあるので市内の高校が強いのでは」と話す。PL学園を見習い、試合前には選手がスタンドの椅子を全て雑巾がけするという。「プレー以外でも学ぶ点がある。走塁とバントを大切にしたい練習を重ね、PL学園を追いかけたことで強くなれたと思う」。山本康平主将(2年)は「豪速球を投げたりホームランを打ったりできなくても勝つチャンスがあるから軟式は面白い」と魅力を語る。

PL学園で今年夏まで主将だった沢村航平君(3年)は「初芝富田林はライバルなので意識するし、河南は昨年夏の大阪大会決勝で、1点差で勝ったチーム。地域で競い合っているから11年連続で市内の高校が代表になっているのでは」と話す。

PL学園の部員数は20人だが、河南は44人。斉藤大仁監督(53)は「河南は部員の多さが強さの一因。今年のチームはメーンの投手力にバッテリーがうまく絡んでいる」と評価する。河南は25日に中京(東海・岐阜)と対戦する予定だ。「相手は伝統のある強いチームだが、守り合いに持ち込み、ワンチャンスをもたせたい」とエールを送っている。(鈴木洋和)

試合前に内陣を組んで気合を入れる河南の選手たち  
富田林市錦ヶ丘町